小学校教員の専門性を高めた
質の高い授業の促進

～小学校教科担任制の導入～

手引き

大分県教育委員会
令和７年３月

目次

はじめに

１．教科担任制導入の経緯……２

２．教科担任制を推進する交換授業……４

３．運用上のポイント……７

４．実際の取組　１）……１８
　　２）……２３

５．成果と課題……２６

６．その他専科教員実践例……３０

７．参考資料……３３

はじめに

県教育委員会は、次代を切り拓く子どもたちに求められる資質・能力を確実に育成する授業を創造するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。

国の動きを見ると、令和３年の中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』において、小学校教科担任制導入の必要性が示される等、教科指導の専門性をもった教員によるきめ細かな指導の充実が求められています。

このような動きに先んじて、県教育委員会では、令和元年度から小学校教科担任制推進地域及び推進校を指定し実践的研究を進め、令和４年度からは、国の小学校教科担任制を導入してきました。教科担任制の専科教員を配置した学校では、「教科の授業が好き、分かる」と回答した児童の割合が非常に高くなっています。これは、担当する教科数が減少したことで、教材研究がより深められたことや教科の系統性を踏まえた指導が行われたこと等による各学校での授業の質の向上によるものと捉えております。また、複数の教員が子どもに関わることで情報交換を頻繁に行うようになり、多面的な児童理解に基づいた組織的な生徒指導が行われるようになってきたという声も聞きます。

一方で、学級担任の指導時数が少なくなることに対する不安や日課表編成・授業時数調整の煩雑さの解消が、導入の際の課題として指摘されています。このような教科担任制を進める上で生じる様々な課題を解決するための参考として本手引きを作成しました。

各学校の規模や地理的条件、人的配置、児童の実態に応じ、教科担任制の取組が一層充実するよう、本手引きを積極的に活用し、子どもたちにとって「楽しくて力の付く授業」が展開されることを期待します。

令和７年３月

大分県教育庁義務教育課
課長　　小野　勇一

１．教科担任制導入の経緯

これまで、多くの小学校で学級担任が基本的にその学級の授業を行う学級担任制が実施されてきました。学級担任制は、担任が学級の児童と１年間を通して密に関わるため、学級の児童について詳しく把握することができるというよさがあります。

しかし、学校を取り巻く環境は、近年大きく変化しています。経験年数の浅い教員が急激に増加する中、多様な児童や保護者への対応も求められ、教員の多忙感が増しています。また、外国語科の導入等により、小学校での学習指導の特徴を生かしながら、中学校以上の抽象的で高度な学習を見通した系統的な指導、より専門性の高い学習指導の必要性も指摘されています。これらに対応していくための取組の１つとして、教科担任制が推進されています。

令和３年に出された中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して』では、以下のように、教科担任制本格導入が打ち出されました。

> 個々の児童生徒の学習状況を把握し、教科指導の専門性を持った教師によるきめ細かな指導を可能とする教科担任制の導入により、授業の質の向上を図り、児童一人一人の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図ることが重要である

令和４年度からは、国により教科等の学習が高度化する小学校高学年で教科担任制を推進する専科教員の配置が本格導入され、その際、対象教科として、外国語、理科、算数が例示されました。

大分県では、県の状況を鑑み、国に先んじて、令和元年度から大分県独自に小学校教科担任制を導入してきました。令和元年度は、県内３つの推進地域を指定し、それぞれの地域で３校、合計９校の推進校を指定して教科担任制を推進しました。その後２年間は、推進地域外にも推進校を指定し、取組を拡大していきました。

令和４年度からは、国による教科担任制を導入しています。

大分県における小学校教科担任制導入の状況

<table>
<tr><th></th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th><th>令和4年度～</th></tr>
<tr><td rowspan="3">推進校の指定状況</td><td>9校</td><td>27校</td><td>36校</td><td rowspan="3">推進地域・推進校を廃止し、国による小学校教科担任制を導入</td></tr>
<tr><td colspan="3">県内に3つの推進地域（宇佐市、国東市、豊後大野市）を指定し、それぞれの地域に3校、計9校を推進校に指定</td></tr>
<tr><td>◆推進地域に推進校9校を指定</td><td>◆推進地域以外に18校を指定し、計27校に拡大</td><td>◆R2の27校からさらに9校を指定し、計36校に拡大
◆県内18市町村中、17の市町に拡大</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教科担任制を推進する教員の名称</td><td colspan="3" rowspan="2">小学校教科担任制推進教員【大分県独自】</td><td rowspan="3">小学校教科担任制推進のための専科教員</td></tr>
<tr></tr>
</table>

2．教科担任制を推進する交換授業

（１）学級担任制の課題

教科担任制を効果的に実施していくためには、交換授業を円滑に実施する必要があります。学級担任制では、担任と児童の関係が強まることで、児童との信頼関係が生まれやすかったり、授業や生活の場面で見られる児童の小さな変化や成長に気づきやすかったりします。しかし、担任が全てに対応することで、例えば、以下のような点が課題となることが考えられます。

○　学習指導について

▲ 個々の教員のもつ教科指導力が１クラスに留まりがち
▲ 指導教科数が多く、教材研究の時間確保が困難

学級担任制では、個々の教員のもつ専門性を校内で十分に生かすことができない場合もあります。
また、小学校の学級担任は指導教科数が多く、勤務時間内に教材研究や授業準備等が十分にできない場合もあります。

○　生徒指導について

▲ 学級担任との不適応による学校生活や学習への影響

学級担任制において、学級担任の指導に対して児童が不適応を起こすと、短期間で関係を改善することは難しいため、学校生活や担任が担当する全ての教科学習に影響を及ぼしてしまうことや保護者との関係づくりが難しくなる場合もあります。

（２）推進する教科担任制の類型

小学校における教科担任制の類型として、主に下記の４つがあります。

前述の課題に対応するための取組の１つとして、大分県では類型④の「学級担任間の交換授業」を推進します。

① 完全教科担任制

（例）中・高と同様の教科担任による指導

発達段階から公立の小学校では実施しにくい
人的配置も基本的に行われにくい

② 特定教科における専科教員の単独指導

（例）体育科専科教員、音楽科専科教員配置等による指導

多くの小学校ですでに導入

③ 学級担任とＴＴ指導を行う専科教員

（例）専科教員が学級担任と行うＴＴ指導

多くの小学校ですでに導入

④ 学級担任間の交換授業

（例）学級担任間で、特定の教科の授業交換で行う指導

推進するもの

◆ **国語、社会、算数、理科、外国語**を中心に

（３）学級担任間の交換授業のメリット

類型④「学級担任間の交換授業」において、例えば「特定の教科の授業交換で行う指導」を進めていくことは、類型②「特定教科における専科教員の単独指導」類型③「学級担任とＴＴ指導を行う専科教員」に比べ、以下のような効果が期待できます。

○　学習指導の充実

◎教科の専門性に基づいて、指導方法の工夫改善が充実できます。

- ○ 複数学級での授業実施による指導法及び評価方法の改善が図られる。
- ○ 指導教科数の減少に伴い教材研究の時間の確保がしやすい。
- ○ 教材研究の深化や教具の創意工夫がしやすい。
- ○ 教科の系統性を考慮した計画が立てやすい。
- ○ 他の教諭の授業や準備を参考にするなど、経験の浅い教師のＯＪＴの場となる。

○　生徒指導の充実

◎多面的な児童理解に基づいて、組織的な指導が充実できます。

- ○ 複数教員による指導体制により、児童理解が深まる。
- ○ 情報共有のための教員間の連携強化が図られる。
- ○ 教員間の連携が強化されることで、児童や保護者の困りに対して素早く気づき、対処することができるようになる。
- ○ 学級経営から学年・学校経営への教員の意識改革が進む。

他にも中学校への円滑な接続等についても効果があります。

３．運用上のポイント

（１）教科担任制の効果・意義

教科担任制の「取組の効果」は、国の手引き「小学校高学年における教科担任制に関する事例集～小学校教育の活性化に繋げるために～（令和５年３月）」において、以下の４つの観点に整理されています。これらを最大限発揮することが教科担任制を効果的に運用するポイントです。

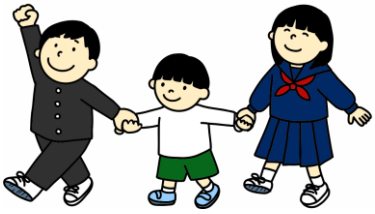
Ⅰ　授業の質の向上
Ⅱ　小･中学校間の円滑な接続
Ⅲ　多面的な児童理解
Ⅳ　教員の負担軽減

Ⅰ　授業の質の向上

教科指導の専門性を持った教員が多様な教材を活用して、より熟練した指導を行うことができます。また、担当する教科数の減少により、教材研究が充実したり、同じ授業を複数回実施することにより、授業改善が図られたりします。

Ⅱ　小・中学校間の円滑な接続

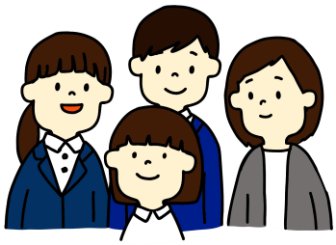
児童が安心して進学し、中学校に進学した際に学習・生活に順応しやすくなります。



Ⅲ　多面的な児童理解

学級担任のみではなく、複数の教員による多面的な児童理解を通じた支援ができるようになります。また、児童にとっては、学級担任以外にも相談できる教員を見つけることができます。これらを通じて、児童の心の安定が図られます。

また、児童の情報共有等を通じて、教員間の連携が深まります。



Ⅳ　教員の負担軽減

担当する教科数が減少したり、授業担当外の時間が増加したりすることで、教材研究の時間を含め、授業準備の効率化につながります。

（２）教科担任制運用のポイント

学級担任間で継続的に授業を交換し、計画的に学習指導を進めていくに当たって、主に下記の3点のような課題が考えられます。

ここからは、その課題に対する解決のヒントを紹介していきます。

1）学校規模・課題に応じた教科選択

① 学級担任制を基盤とし、**実情に応じた実施学年・教科**を選択

② 学校の実情に応じた**計画的・弾力的な時間割編成と変更**

2）学習指導や生徒指導の充実

① **学年部会の定例化**による情報交換の実施

② **同じ教科担当者による打ち合わせや教科部会、単元の指導計画の作成**

3）円滑な実施のための啓発

① **PTAや地域との連携**、また**授業公開等の実施**による啓発

② 学習計画表等で**授業内容、宿題等を児童・保護者に周知**

1）学校規模・課題に応じた教科選択

① 実情に応じた実施学年・教科

教科担任制を推進するに当たって、誰がどの学年のどの教科（**高学年の国語、社会、算数、理科、外国語を中心に**）をもつのかを決定する必要があります。

【例１】 5・6学年　計2学級での交換授業 ⇒ 11ページ

【例2】 5・6学年　計3学級での交換授業 ⇒12ページ

【例3】 5・6学年　計4学級での交換授業 ⇒ 13ページ

ヒント

○ 教員の**得意教科**等に配慮し、担当教科を決める。
○ **担任外教員**を加えて、指導教科数をさらに減らしたり、空き時間を増やしたりすることで、**教材研究や教材作成の時間を確保**する。

② 計画的・弾力的な時間割編成と変更

各教科等において、標準の授業時数を踏まえて計画的に指導していくためには、時間割の編成と変更が重要です。

ヒント

○ 各教科担当の**週指導計画**に基づいて計画的に時間割の変更をする。
○ 週指導計画を職員室に掲示するなど、**全校的な協力体制**をつくる。
○ 特別教室の使用等、**全校的な理解**を得ながら時間割の変更をする。
○ 学級担任の交換授業は**同じ時間帯に設定**する（変更が容易）。
○ **時間割編成ソフト**や**中学校のノウハウ**を活用する。

【例1】 5･6学年　計2学級での交換授業

5年(A教員)					
	月	火	水	木	金
1	算	算	算	算	算
2	国	国	国	国	国
3	理	理	理	社	社
4	社	音	図	外	外
5	音	体	体	体	家
6	道	総	-	総	特

6年(B教員)					
	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	算	算	算	算	算
3	社	社	社	理	理
4	理	体	体	音	家
5	体	音	図	外	外
6	道	総	-	総	特

担任A教員 ⇒ **算数**(5時間×2学級)、**理科**(3時間×2学級)

担任B教員 ⇒ **国語**(5時間×2学級)、**社会**(3時間×2学級)

A教員					
	月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年
2	6年	6年	6年	6年	6年
3	5年	5年	5年	6年	6年
4	6年	5年	5年	5年	5年
5	5年	5年	5年	5年	5年
6	5年	5年	-	5年	5年

B教員					
	月	火	水	木	金
1	6年	6年	6年	6年	6年
2	5年	5年	5年	5年	5年
3	6年	6年	6年	5年	5年
4	5年	6年	6年	6年	6年
5	6年	6年	6年	6年	6年
6	6年	6年	-	6年	6年

※ 日課表は参考であり、実際には月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 担任の担当教科数が2教科減少します。

○ 担任外教員を加えることで、さらに教科数が減少して空き時間ができ、教材研究等の時間も確保できます。

○ 担任外教員が配置されていない学校は、実施教科の工夫により、担当教科数が減少されます。

【例2】 5･6学年　計3学級での交換授業

5年(A教員)	月	火	水	木	金
1	理	音	図	音	家
2	体	体	体	社	社
3	国	国	国	国	国
4	算	算	算	算	算
5	社	外	外	理	理
6	道	総	-	総	特

6年1組(B教員)	月	火	水	木	金
1	国	図	音	家	音
2	算	算	算	算	算
3	社	社	社	理	理
4	理	国	国	国	国
5	体	体	体	外	外
6	道	総	-	総	特

6年2組(C教員)	月	火	水	木	金
1	体	体	体	外	外
2	国	国	国	国	国
3	算	算	算	算	算
4	社	社	社	理	理
5	理	音	図	音	家
6	道	総	-	総	特

担任外のD教員

⇒ **国語**（5時間×3学級）

⇒ 6年1組の**外国語**(2時間)

⇒ 6年1組の**体育**(3時間)

担任A教員 ⇒ **理科**(3時間×3学級)

担任B教員 ⇒ **算数**(5時間×3学級)

担任C教員 ⇒ **社会**(3時間×3学級)

A教員	月	火	水	木	金
1	5年	5年	5年	5年	5年
2	5年	5年	5年		
3				6-1	6-1
4	6-1			6-2	6-2
5	6-2	5年	5年	5年	5年
6	5年	5年	-	5年	5年

B教員	月	火	水	木	金
1		6-1	6-1	6-1	6-1
2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
4	5年	5年	5年	5年	5年
5					
6	6-1	6-1	-	6-1	6-1

C教員	月	火	水	木	金
1	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
2				5年	5年
3	6-1	6-1	6-1		
4	6-2	6-2	6-2		
5	5年	6-2	6-2	6-2	6-2
6	6-2	6-2	-	6-2	6-2

D教員	月	火	水	木	金
1	6-1				
2	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
3	5年	5年	5年	5年	5年
4		6-1	6-1	6-1	6-1
5	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
6			-		

※ 灰色のコマは空き時間を示す。
※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数調整する必要がある。

◎ 担任の担当教科数が3～5教科減少します。※担任外教員1名を加えた場合。

◎ 担任の空き時間は6～7 時間となります。※担任外教員1名を加えた場合。

○ 担任外教員を加えることで、教科数が減少して空き時間ができ、教材研究等の時間も確保できます。

【例3】 5・6学年　計4学級での交換授業

5年1組（A教員）	月	火	水	木	金
1	社	音	体	体	家
2	家	理	図	社	社
3	国	国	国	国	国
4	算	算	算	算	算
5	音	外	外	理	理
6	特	総	-	総	道

5年2組（B教員）	月	火	水	木	金
1	国	国	国	国	国
2	体	外	家	理	理
3	社	音	図	音	体
4	理	家	外	社	社
5	算	算	算	算	算
6	特	総	-	総	道

6年1組（C教員）	月	火	水	木	金
1	理	体	音	家	社
2	算	算	算	算	算
3	音	社	社	理	理
4	国	図	国	国	国
5	体	国	家	外	外
6	特	総	-	総	道

6年2組（D教員）	月	火	水	木	金
1	音	家	家	外	外
2	国	国	国	音	図
3	算	算	算	算	算
4	社	社	社	理	理
5	理	体	体	国	国
6	特	総	-	総	道

担任外の
E教員
⇒ 社会
（3時間×4学級）

⇒ 体育
（2時間×4学級）

担任A教員 ⇒ **理科**（3時間×4学級）、**家庭**（2時間×4学級）

担任B教員 ⇒ **外国語**（2時間×4学級）、**音楽**（2時間×4学級）
図工（1時間×4学級）

担任C教員 ⇒ **国語**（5時間×4学級）

担任D教員 ⇒ **算数**（5時間×4学級）

A教員	月	火	水	木	金
1	6-1	6-2	6-2	6-1	5-1
2	5-1	5-1	5-2	5-2	5-2
3				6-1	6-1
4	5-2	5-2		6-2	6-2
5	6-2		6-1	5-1	5-1
6	5-1	5-1	-	5-1	5-1

B教員	月	火	水	木	金
1	6-2	5-1	6-1	6-2	6-2
2		5-2	5-1	6-2	6-2
3	6-1	5-2	5-2	5-2	
4		6-1	5-2		
5	5-1	5-1	5-1	6-1	6-1
6	5-2	5-2	-	5-2	5-2

C教員	月	火	水	木	金
1	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2
2	6-2	6-2	6-2		
3	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1
4	6-1		6-1	6-1	6-1
5		6-1		6-2	6-2
6	6-1	6-1	-	6-1	6-1

D教員	月	火	水	木	金
1					
2	6-1	6-1	6-1	6-1	6-1
3	6-2	6-2	6-2	6-2	6-2
4	5-1	5-1	5-1	5-1	5-1
5	5-2	5-2	5-2	5-2	5-2
6	6-2	6-2	-	6-2	6-2

E教員	月	火	水	木	金
1	5-1	6-1	5-1	5-1	6-1
2	5-2			5-1	5-1
3	5-2	6-1	6-1		5-2
4	6-2	6-2	6-2	5-2	5-2
5	6-1	6-2	6-2		
6			-		

※ 灰色のコマは空き時間を示す。
※ 日課表は参考であり、実際には、月もしくは学期毎に日課表を組み替え、時数を調整する必要がある。

◎ 担任の担当教科数が6～8教科減少します。※担任外教員を1名加えた場合。

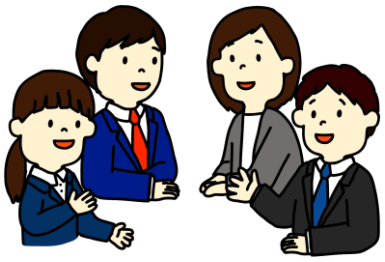
◎ 担任の空き時間 は5時間となります。※担任外教員を1名加えた場合。

○ 担任外の教員を加えることで、教科数が減少して空き時間ができ、
教材研究等の時間も確保できます。

2）学習指導や生徒指導の充実

① 学年部会の定例化

定期的に学級担任と関係教員で次週の計画や児童の学習状況を共有することが大切です。特に児童の安全や生徒指導に関わる内容等については速やかに共有する必要があります。5・6年合同部会も考えられます。



ヒント

- ○ 曜日と時刻を決め、**週に1回**、学年部会を設定する。
- ○ ノートの記述の仕方や発言の方法などの学習方法等、児童が混乱しないよう、**指導方法を共有**していく。
- ○ 週指導計画に基づき、**指導内容**や**宿題**について、協議、調整する。
- ○ 配慮を要する児童の**共通理解や支援**について検討する。

② 同じ教科担当者による打ち合わせや単元の指導計画の作成

例えば、5年生の国語を担当する教員と6年生の国語を担当する教員がいる場合、同じ教科担当者で教材研究を行ったり、単元の指導計画を作成したりすることで、5年生と6年生を見通した、より系統的な単元の指導計画の作成や学習指導等ができます。

ヒント

- ○ 時間割を作成する際、**同じ教科担当者の空き時間が同じ時間帯**になるよう工夫し、**打合せ時間を確保**する。
- ○ 単元の指導計画、指導案、教材、学習プリント等、**ファイルやデータを共有**し、同じ教科担当者の教材研究や学習指導等に役立てる。

3)円滑な実施のための啓発

① PTAや地域との連携、授業公開の実施

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、PTAや地域との連携が必要です。小学校教科担任制の目的や期待される効果を周知していくことはもちろん、授業公開等で積極的に担任間で授業交換をしている様子を見ていただくことも大切です。

ヒント

- ○ 年度当初の**PTA総会**や**学校だより**等で、小学校教科担任制の目的や期待される効果を保護者や地域へ周知し、理解を得る。
- ○ **学校評価**等で定期的な評価を行う。
- ○ **学校公開日**等の機会に、積極的に交換授業を取り入れ、小学校教科担任制を啓発していく。

② 授業内容、宿題等、児童・保護者に周知

小学校教科担任制を円滑に実施していくには、小学校教科担任制の趣旨や具体的な方法等はもちろん、授業内容や宿題について、保護者と児童に分かりやすく周知していく工夫が必要です。

ヒント

- ○ **週の学習計画表等**を作成して配付し、1週間の大まかな授業内容、持ち物や宿題等を確実に周知する。
- ○ 教科担任の指導の下、各教科係が学習内容や宿題等を連絡黒板等に記入する。

（3）マネジメントの必要性

教科担任制を効果的に推進するためには、教員が教科担任制の効果を実感できるようにすることが重要です。

学級担任制のもとでは、学級担任が全ての教科等の授業をすることで、教科等横断的な学習が効果的に行われてきました。この様な利点が損なわれないよう、教員は、担当しない教科も含めて、すべての教科等について、**当事者意識をもって**授業等に臨む必要があります。

そのためにも管理職によるマネジメントが欠かせません。例えば、以下のような工夫も考えられます。

ヒント

〇教科担任制の効果について、学校全体で共有する
〇学級担任と専科教員が密接に連携できるような体制をつくる
〇専科教員が学校の授業改善についてのミッションをもてるようにする
〇担当する教科が数年に渡って固定されないよう配慮する
〇学級担任は、学級だけでなく、専科教員は授業だけでなく、全員で所属する学年を経営する意識をもてるようにする

管理職によるマネジメントを通じて、一部の教員だけではなく、学校全体として取り組むようにしていくことが大切です。

（４）授業の質の向上に資する教科担任制へ

大分県では、学級担任間の交換授業を推進していくことで、教科担任制の効果のⅠとして挙げた「授業の質の向上」を図ることに重点を置いて取組を進めていきます。学級担任間の交換授業を実施して、学校や学年全体の授業の質の向上につなげていくことを目指します。

実施に当たっては、学校の実情を考慮して教科担任制を導入するとともに、児童のために効果的かどうかを常に検証していく必要があります。

次の章では、実践を紹介します。それぞれの学校の「授業の質の向上」につながる教科担任制の実施方法の検討に活用してください。

Ⅰ　授業の質の向上

Ⅱ　小・中学校間の円滑な接続

Ⅲ　多面的な児童理解

Ⅳ　教員の負担軽減

４．実際の取組　１）

【別府市立朝日小学校】

学級担任間交換授業の完全実施校

５年…４学級

６年…３学級

【日出町立日出小学校】

専科教員の戦略的配置校

５年…２学級

６年…２学級

別府市立朝日小学校

別府市立朝日小学校では、算数の専科教員を配置し、各教科において、学級担任間の交換授業を行っています。
専科教員は５年生４クラスで授業を行っています。

＜導入の概要＞

年組	担任	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	外国語	関わる教員数
5年1組	A教員	A	D	専科	C	D	C	B	A	B	5
5年2組	B教員								B		5
5年3組	C教員								C		5
5年4組	D教員								D		5

＜留意した点＞

・経験や得意教科を話合い、担当教科を決定
・子どもの変化、学びの様子を教員間で密に情報交換する

教員	担当教科数	空き時間数（週）
A教員	3	2.4
B教員	3	7.6
C教員	3	4.8
D教員	3	5.2
専科教員	1	9

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

＜導入の効果＞

Ⅰ 授業の質の向上

○ 同じ授業を4回行えるので、準備時間が軽減でき、授業改善も進んだ。
○ 専科教員に数学の専門性があり、中学校数学までを見通した系統性のある授業が計画的に実施できた。
○ 一人でその教科を担任するので、指導と評価が統一され、ブレが無くなった。
○ 算数が好きと肯定的な回答をする児童が増加した。

Ⅲ 多面的な児童理解

○ どの子どものこともわかるようになるので、子どもの困りに対し早期に学年部で対応ができた。
○ 子どもと教員との相性による悩みが減った。

＜取組の特徴＞

○　担当教科は、学年の先生方で相談の上で決定
○　5年生の最初の学年集会で児童に教科担任制を説明
○　中学校数学の専門性を生かした小中の系統性を意識した授業
○　放課後の児童についての情報交換
○　体育は、水泳の授業等での安全面も考慮して複数が担当できるように各担任が担当
○　交換授業の実施教科
　5年　国語・算数・理科・社会・外国語・図工・音楽・家庭科
　6年　国語・算数・社会・外国語・図工・家庭科

日出町立日出小学校

日出町立日出小学校では、算数の専科教員を配置し、学校の実情に応じて、学級担任間の交換授業を行っています。
専科教員は５、６年生４クラスで授業を行っています。

＜導入の概要＞

<table>
<tr><th>年組</th><th>担任</th><th>国語</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>音楽</th><th>図工</th><th>家庭</th><th>体育</th><th>外国語</th><th>関わる教員数</th></tr>
<tr><td>5年1組</td><td>A教員</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="4">専科</td><td rowspan="4">その他の専科</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">B</td><td>A</td><td rowspan="4">その他の専科</td><td>5</td></tr>
<tr><td>5年2組</td><td>B教員</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>5</td></tr>
<tr><td>6年1組</td><td>C教員</td><td>C</td><td rowspan="2">C</td><td>C</td><td rowspan="2">D</td><td rowspan="2">D</td><td>C</td><td>5</td></tr>
<tr><td>6年2組</td><td>D教員</td><td>D</td><td>D</td><td>D</td><td>5</td></tr>
</table>

＜留意した点＞

・得意教科や経験年数、学習や生活における指導力等を考慮して担当教科を決定
・学年ごとに空き時間を合わせて、学年部会を設定し、児童理解を図る
・学級経営の観点から時間数の多い国語は担任が担当

教員	担当教科数	空き時間数（週）
A教員	4	10
B教員	5	10
C教員	4	10
D教員	5	10
専科教員	1	8

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

＜導入の効果＞

Ⅰ 授業の質の向上

○ 同じ授業を2回行うことで、授業準備の時間が取れ、授業も改善できた
○ 5、6年で同じ時期に内容の似た単元が設定されており、系統性を考えた授業ができた
○ 一人でその教科を担任するので、指導と評価が統一され、ブレが無くなった

Ⅲ 多面的な児童理解

○ 児童に関わる教員が増え、担当教科と他教科で見えた児童の姿を話し合うことで、児童理解が深まった
○ 専科教員が、授業を通して高学年の全児童と関わることで、徐々に落ち着いて学習に向かう姿が見られるようになった

＜取組の特徴＞

○　経験豊富な専科教員が高学年全体に関われるように配置
○　児童の実態をふまえ、単元計画を立て、各担任と内容を共有
○　準備物を置く、教具を作成する、子どもの特性に配慮し個別の学習をする等が可能な部屋の確保
○　子どもの学習状況や困りの把握等の密な情報交換
　→多くの教職員で子どもたちを見守り、さまざまな場での対応が可能
○　学年部で、互見授業と短時間の事後研で振り返りを実施
○　学習の基盤となる学級・学年づくりの研修の実施

４．実際の取組　２）

【宇佐市立四日市北小学校】

専科教員を中核に据えた
授業の質の向上の取組実践校

５年…２学級

６年…２学級

宇佐市立四日市北小学校

宇佐市立四日市北小学校では、算数の専科教員を配置し、学級担任間の交換授業を行っています。専科教員が研究主任をすることで、学校全体の授業の質の向上を図っています。

専科教員は５、６年生４クラスで授業を行い、担任も算数の授業を行うことができる体制にしており、単元によって習熟度別の授業を計画的に実施する等の工夫を可能にしています。

＜導入の概要＞

<table>
<tr><th>年組</th><th>担任</th><th>国語</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>音楽</th><th>図工</th><th>家庭</th><th>体育</th><th>外国語</th><th>関わる教員数</th></tr>
<tr><td>5年1組</td><td>A教員</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">B</td><td>A</td><td rowspan="4">他の専科</td><td>A</td><td>A</td><td>A</td><td rowspan="2">他の専科</td><td rowspan="2">B</td><td>5</td></tr>
<tr><td>専 科</td></tr>
<tr><td>5年2組</td><td>B教員</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>B</td><td>5</td></tr>
<tr><td>専 科</td></tr>
<tr><td>6年1組</td><td>C教員</td><td rowspan="2">D</td><td rowspan="2">C</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td><td>C</td><td rowspan="2">C</td><td rowspan="2">他の専科</td><td>5</td></tr>
<tr><td>専 科</td></tr>
<tr><td>6年2組</td><td>D教員</td><td>D</td><td>D</td><td>D</td><td>D</td><td>5</td></tr>
<tr><td>専 科</td></tr>
</table>

＜留意点＞

- 担任間で得意教科や経験を話合い、担当教科を決定
- 高学年の算数は習熟度別の授業ができることを想定
- 教材研究の時間の確保や複数学級で授業実施によって、指導法及び評価方法の改善を図る

教員	担当教科数	空き時間数（週）
A教員	5	5
B教員	6	5
C教員	5	5
D教員	6	5
専科教員	1	7 4年生の授業も一部担当

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

＜管理職のマネジメント＞

○ 授業を中心に据えてマネジメント
○ 全体の授業に気を配れるよう、専科教員を研究主任に任命し、経験や専門性を生かせるミッションをもてるようにした
○ 授業については、教員からの相談等が専科教員に集まるようにし、（管理職との意思疎通のもと）授業づくりの視点等が統一されるようにした
○ 学級担任が専科教員等の授業参観に行けるようにするため、その時間管理職も授業をして機会をつくるようにした

＜導入の効果＞

Ⅰ授業の質の向上

○ 専科教員が研究主任をすることで、学校全体の教員の授業に気を配り関わることができた
○ どのように授業改善を進めるかについて、全員で考える時間をもつ体制をとることで授業改善についての提案ができた
○ 教員の「もっとよい授業がしたい」という意識が強くなった
○ 教員がわくわくしながら授業に取り組む姿が見られるようになった
○ 児童が課題の解決に向けて、熱心に話し合ったり聞き返したりしながら学ぶ姿が見られるようになった
○ 算数が好きと肯定的な回答をした児童が増加した。続けて、他教科も好きと肯定的な回答をした児童が増加した

Ⅲ多面的な児童理解

○ 複数の教員が関わることで、より児童理解が深まった
○ 児童が授業の中に楽しみを見つけることができるようになり、友だち同士の関わりについての困りが減少した

＜取組の特徴＞

○ 管理職の明確な方針、専科教員を研究主任に任命
○ 必要に応じ、専科教員と担任が習熟度別の授業を行えるような体制
○ 木曜日に学年部会を設定
　・子どもの学びに向かう姿の共有
　・子どものつまずきの共有
　・教材研究
　・授業や学級の困り、悩みの話合い
○ 専科教員と管理職等が連携し、経験年数の浅い教員が他の授業を参観できる時間を確保
○ 学校全体の授業の質の向上につなげるため、専門性をもった専科教員が、授業づくりについて学校全体に発信

5．成果と課題

成　　果

専科教員配置校では、「教員」「児童」「学校」の立場それぞれから、以下のような成果が挙げられています。

教員	・専科教員が研究主任となることで、学校全体の教員の授業力が向上した
	・評価のブレがなくなった
	・得意でない教科の授業を担当しないことで精神的な負担が減少した
	・児童を多面的に見取ることができた
	・交換授業により、学年全体をみる意識が高まった

児童	・専門的な視点からの授業が受けられた
	・たくさんの教員と関わることができた
	・相談する先生を自分で選べた

学校	・各自が指導する教科数が減ったことで、仕事を早く終わらせることができた

授業の質の向上

児童理解の深まり

配置校で実施した質問紙調査結果から（児童対象）

対象児童：配置校の第5・6学年　約3800名

質問内容	肯定的回答の割合		県学力定着状況調査 R6年度5年生（参考）
	R4年度4月	R6年度2月	
国語が好き	69.8%	75.4%	49.9%
国語が分かる	92.4%	94.0%	86.8%
算数が好き	67.3%	68.4%	55.2%
算数が分かる	88.9%	87.6%	81.5%
社会が好き	71.8%	74.8%	51.7%
社会が分かる	90.5%	90.6%	82.8%
理科が好き	81.6%	76.8%	70.4%
理科が分かる	91.6%	90.7%	86.9%
外国語が好き	75.8%	74.3%	65.8%
外国語が分かる	83.1%	84.0%	項目なし
自分から進んで学習に取り組んでいる	82.6%	85.2%	78.7%
教科担任制はよい	88.7%	89.5%	項目なし

○ アンケートの結果から、専科教員の配置校ではそれぞれの教科について、「好き」「分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が高くなっています。

○ 自分から進んで学習に取り組んでいる児童の割合も高くなっています。

○ 多くの児童が、教科担任制を肯定的に評価しています。

配置校で実施した質問紙調査結果から（教員保護者対象）

対象者：教科担任制実施学年に関わる教員、保護者

	質問内容	肯定的回答の割合	
		R4年度2月	R6年度2月
授業の質向上	指導法や評価方法が改善できた	97.6%	96.8%
	教材研究が深まった	96.8%	96.0%
児童理解	児童理解が深まった	95.6%	97.1%
	学年・学校経営へ意識が変わった	92.0%	89.5%
小中連携	小中の系統性を踏まえやすい	81.6%	83.5%
働き方	働き方改革につながった	84.9%	92.3%
教員	教科担任制は子どもにとって効果的だ	93.2%	95.2%
保護者	教科担任制は子どもにとって良い	96.5%	95.8%

○ 教科担任制の４つの効果について、配置校ではそれぞれ肯定的な回答をした教員の割合が非常に高くなっています。

○ 教科担任制は子どもにとって効果的だと回答した教員の割合が高くなっています。

○ 多くの保護者が、教科担任制は子どもにとって良いと肯定的に評価しています。

課　　題

専科教員配置校では、「教員」「児童」「学校」の立場それぞれから、以下のような課題も見えています。

教員	・担任教員の意向を踏まえた担当教科の設定の難しさ 「担当しない教科の経験が積めないことに不安を感じる」 「学級経営と関連して国語か算数は担任が授業をしたい」 等
	・専科教員が、学年の授業改善に関われておらず、**専門性が十分に発揮されていない**

児童	・教科ごとに教員が変わることに対する児童の不安感や苦手意識

学校	・持ち時間の平均化のため、1時間だけ低学年の授業を担当するなど、**効果的とは考えにくい運用**

管理職の方針

専科教員の専門性を発揮する場の確保

このような課題があることも十分理解し、専科教員の配置や授業の質の向上に向けた働きかけの工夫などを通して、児童・保護者・教員が効果を最大限に感じられるような取組にしていくことが大切です。

６．その他 専科教員実践例

学年の枠を越えた教科担任制実施校

【国東市立安岐小学校】

５年…１学級

６年…１学級

【津久見市立津久見小学校】

５年…２学級

６年…１学級

国東市立安岐小学校

＜導入の概要＞

<table>
<tr><th>年組</th><th>担任</th><th>国語</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>音楽</th><th>図工</th><th>家庭</th><th>体育</th><th>外国語</th><th>関わる教員数</th></tr>
<tr><td>5年</td><td>A教員</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">専科</td><td rowspan="2">専科</td><td>A</td><td>A</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="2">その他の専科</td><td>4</td></tr>
<tr><td>6年</td><td>B教員</td><td>B</td><td>B</td><td>4</td></tr>
</table>

＜専科教員の担当教科＞

・6年生1学級…理科・音楽
・5年生1学級…理科・音楽
・4年生1学級…理科・音楽
・3年生1学級…理科・音楽・社会

教員	高学年担当教科数	空き時間数（週）
A教員	4	6
B教員	4	5
専科教員	2	7

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

＜留意した点＞

・教職員のキャリアステージ及び得意分野や経験知を踏まえ、担当教科を決定した。
・会議等で教科担任制の目的や教科担任制が始まる5年生に予想される困りや解決策について、共通理解を図った。
・昨年度の反省から、今年度は特別支援学級の日課表編成を優先して日課表作成を行った。

津久見市立津久見小学校

＜導入の概要＞

<table>
<tr><th>年組</th><th>担任</th><th>国語</th><th>社会</th><th>算数</th><th>理科</th><th>音楽</th><th>図工</th><th>家庭</th><th>体育</th><th>外国語</th><th>関わる教員数</th></tr>
<tr><td>5年1組</td><td>A教員</td><td rowspan="3">C</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">A</td><td rowspan="3">専科</td><td rowspan="3">その他の専科</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="3">専科</td><td rowspan="2">A</td><td rowspan="3">その他の専科</td><td>6</td></tr>
<tr><td>5年2組</td><td>B教員</td><td>6</td></tr>
<tr><td>6年</td><td>C教員</td><td>C</td><td>6</td></tr>
</table>

＜専科教員の担当教科＞

・6年生1学級…理科・家庭
・5年生2学級…理科・家庭
・4年生2学級…理科
・3年生1学級…理科

教員	高学年担当教科数	空き時間数（週）
A教員	2	5
B教員	2	6
C教員	2	7
専科教員	2	6

※担当教科数は、総合的な学習の時間、学活、道徳を除く。

＜留意した点＞

・経験年数の浅い教員にとって過度な負担とならないよう配慮して、担当教科を決定した。
・5・6年生をまたいだ交換授業を実施することで、子どもを複数の教職員で見守り、支援できる体制にした。
・月曜日に次週の日課表を全体提案し、修正意見を反映した確定版を水曜日に配布することで、授業が確実に行えるようにした。

7．参考資料

チーム担任制

学級担任間での交換授業をさらに広げ、担任業務についても複数の教員で担当する取組があります。複数で担任することで負担が一人に集中しないようにするこの取組は、チーム担任制、学年担任制等と呼ばれ、導入する自治体も増えてきています。

教員が、該当学年の児童全員の担任という立場で授業改善や生徒指導に臨むことができたり、経験年数の浅い教員が他の教員から学ぶ機会を確保しやすかったりすることなどによる授業の質の向上や児童理解の充実が期待されています。

実施の方法は様々ですが、小学校教科担任制推進のための専科教員が担任のチームに加わることで、学級数より教員数を増やすことができます。担任ではない期間（週）を確保できることから、以下のような点で利点があると考えられます。

- 各自が優先的に取り組みたい教材研究等に取り組むことができる。
- 担任をしている時とは異なる視点で児童を捉えることができ、その時の気づきを担任業務に生かすことができる。
- フリーの教員がいることで、急な変更等にも柔軟に対応できる。
- 経験年数の浅い教員は、フリーの期間（週）に、他の教員の実践を見て学ぶ（機会の確保）ことができる。

小規模校におけるチーム担任

＜取組の概要＞

- 5名の教員で、3･4･5･6年の4学級を担任
- 経験豊富なベテラン教諭Dがリーダー
- 専科教員が3～6年の算数20時間を担当

	1	2	3	4	5
3年	B	E	D	C	A
4年	C	A	E	B	D
5年	E	B	A	D	C
6年	D	C	B	A	E
Free	A	D	C	E	B

- 学級担任：A～E教諭（C教務主任、Dリーダー、E専科教員）
- 1～5のパターンで1週間ごとに担任を交代
- 学年の行事の日なども考慮し、どの週にどのパターンで担任をするかは、管理職が決定する
- 担任業務（保護者連絡、出欠確認、朝の会、給食指導、帰りの会）は、その週の学級担任が行う

＜導入の効果＞

児童対応　：リーダーを中心に、5人で相談し、方針や具体的対応を決定する
　　5人で学級経営をすることによる精神的負担の減少

仕事配分　：6年担任に偏っていた業務を分配（管理職が決定）

サポート　：チーム内の教諭が、多忙な状況にある場合、業務内容がわかっているので、すぐ手伝うことができる

中規模校におけるチーム担任

＜取組の概要＞

- 低学年、中学年、高学年で、それぞれチーム担任を導入
- 5名の教員で、5･6年の4学級を担任
- 経験豊富なベテラン教諭Dがリーダー
- 専科教員は4～6年の6学級と3年の1学級の理科21時間を担当

	1	2	3	4	5
5年1組	A	D	B	E	C
5年2組	B	E	C	A	D
6年1組	C	A	D	B	E
6年2組	D	B	E	C	A
Free	E	C	A	D	B

- 学級担任：A～E教諭
  （A6年主任、C5年主任･リーダー、E専科教員･研究主任）
- 1～5のパターンで1週間ごとに担任を交代
- 学年の行事の日なども考慮し、どの週にどのパターンで担任をするかは、管理職が決定する
- 担当教科は、学年部のチーム内で相談しながら決定する

＜導入の効果＞

児童対応　：リーダーを中心に低･中･高のブロックで組織的に対応する

仕事配分　：担任業務を分業でなく、協働して取り組むようにして、業務の偏りをなくすことができる

経験年数の浅い教員にとって、望ましい環境になっている

小学校教員の専門性を高めた質の高い授業の促進
～小学校教科担任制の導入～
手引き

大分県教育庁義務教育課学力向上支援班
〒870-8503
大分市府内町3丁目10番1号
TEL(097)506-5519